

(作業班)

- | | |
|--------------|---|
| 第1回会合（2月3日） | 審議開始の報告、調査の進め方の確認
アドホックグループの設置 |
| 第2回会合（2月19日） | 構成員によるプレゼンテーション（NTTドコモ、KDDI、
クアルコムジャパン） |
| 第3回会合（2月22日） | 構成員によるプレゼンテーション
（ノキアシーメンスネットワークス、モトローラ） |
| 第4回会合（3月2日） | 構成員によるプレゼンテーション（ソフトバンクモバイル、
イー・モバイル、UQコミュニケーションズ、インテル） |

(中継無線局アドホックグループ)

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 第1回会合（2月23日） | 要求条件及び技術方式の検討 |
| 第2回会合（2月26日） | 要求条件及び技術方式の確認
無線局モデルの検討 |

提案概要 (1 / 2)

提案者	概要
NTTドコモ	<ul style="list-style-type: none">・データトラフィックの増加に対応するため、割当可能帯域をできるだけ多く確保すべき・周波数有効利用率の高いシステムを運用すべき(LTE方式(FDD)を想定)・さまざまな隣接業務があるため慎重に共用検討を行うべき
KDDI	<ul style="list-style-type: none">・LTE方式10MHz幅(FDD)以上を想定・グローバルなユーザー利便性の増進に資する電波利用環境の整備への配慮や端末流動性への配慮が重要
クアルコムジャパン	<ul style="list-style-type: none">・700MHz帯域のハーモナイゼーションを積極的に検討すべき・900MHz帯(UMTS900帯域)の再編可能性を探るべき
ノキアシーメンスネットワークス	<ul style="list-style-type: none">・900MHz帯でのペアバンドを検討すべき・700MHz帯はAWF, ITU-R等の結論を考慮すべき
モトローラ	<ul style="list-style-type: none">・LTEを前提とすべき・将来的な700MHz帯FDDの導入を可能とすべき・公共ブロードバンドにも割当てをすべき

提案概要 (2/2)

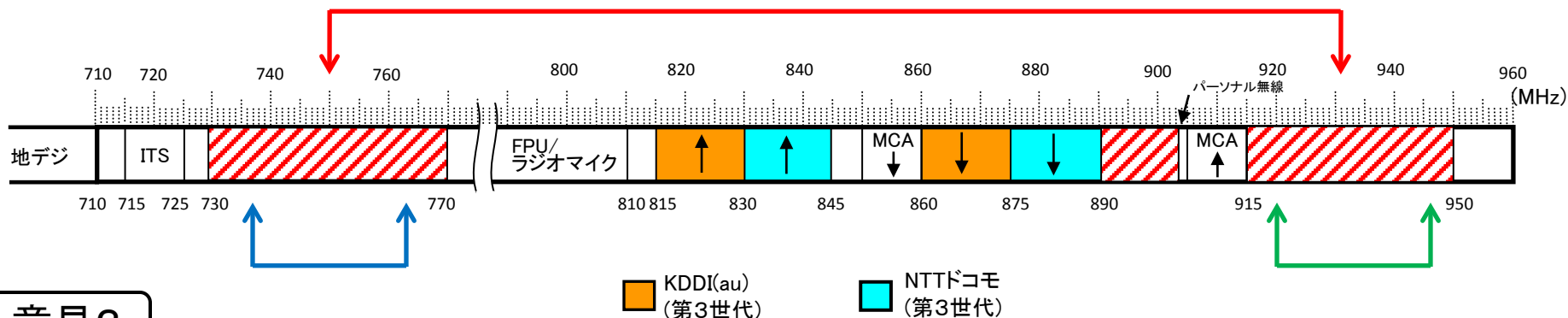
提案者	概要
ソフトバンクモバイル	<ul style="list-style-type: none">・将来を見据えた配置を検討すべきだが、2012年以降早期に利用開始とすべき・エリアカバレッジに適した周波数特性を活用すべき・W-CDMA方式及びLTE方式を前提とすべき・20MHz幅(FDD)を前提とすべき・隣接業務とのハードバンドを可能な範囲で少なくすべき
イー・モバイル	<ul style="list-style-type: none">・LTE及びHSPAの導入を検討すべき・高速データ通信を考慮した周波数帯幅とすべき・諸外国とのハーモナイゼーションに配慮すべき
UQコミュニケーションズ	<ul style="list-style-type: none">・FDD方式のMobile WiMAXによって、都市部の閉空間対策や郊外の広域展開に利用すべき
インテル	<ul style="list-style-type: none">・WiMAXを対象とすべき・700MHz帯にTDDを導入し、AWF提案と地域的な調和を図るべき・900MHz帯はGSM(FDD)と調和を図るべき

主な意見のまとめ

意見1

- ・早期に利用するため700MHz帯と900MHz帯とをペアで利用すべき
- ・ガードバンドを小さくとり、10MHz幅以上を割当て (NTTドコモ、ソフトバンク、UQコム)

周波数再編後(2012年7月以降)



意見2

- ・海外とのハーモナイゼーションを考慮し、700MHz帯をペアで利用すべき (クアルコムジャパン、ノキアシーメンスネットワークス、モトローラ)

意見3

- ・海外とのハーモナイゼーションを考慮し、900MHz帯をペアで利用すべき (クアルコムジャパン、ノキアシーメンスネットワークス、インテル)

意見4

- ・他国との間で問題が発生しないよう干渉検討を確実に実施すべき (NTTドコモ、ノキアシーメンスネットワークス、イー・モバイル)